

は“IEEE VR 2001 & INTERACT 2001 共同電子投稿・査読システム開発プロジェクト”の成果を利用し大きな混乱無く300件以上の投稿を処理することができ、またこれを転用した参加受付システムも当日まで不具合なく運用できました。結果的に400名程の会議参加者に対して、現在までに28000を越えるページビューを頂き、無事に与えられた使命を遂行いたしました、ほっとしております。

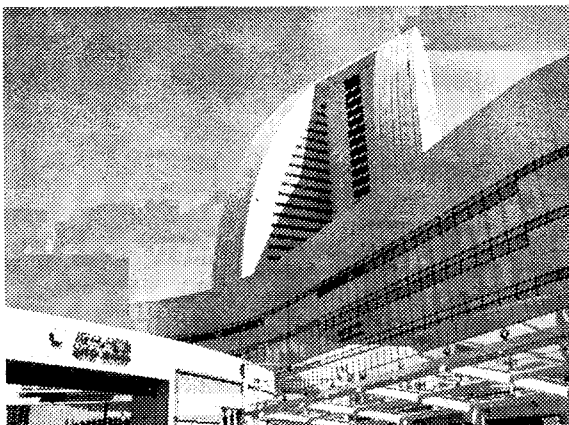
◆ Local Arrangement 担当

田村秀行

キヤノン(株)

国際会議に相応しい場所であることと ISMR 2001 (複合現実感国際シンポジウム) との同時開催による相乗効果を期待して、横浜市での開催が決定された。会場となったパシフィコ横浜・会議センターは、首都圏の3大コンベンション施設の1つであり、資金面を除いては、会議施設・宿泊施設ともに国際会議には申し分のない環境であったと言える。

街全体が観光都市であり、また周囲の「みなとみらい21地区」がモダンな商業施設であったため、英文でのマップを用意するだけで、特別な観光コースを用意する必要がなかった。宿泊施設間での値引き競争に折りからの円安も手伝って、高品質のホテル宿泊が格安の価格で提供でき、外国からの参加者に高い満足度を与えることができた。



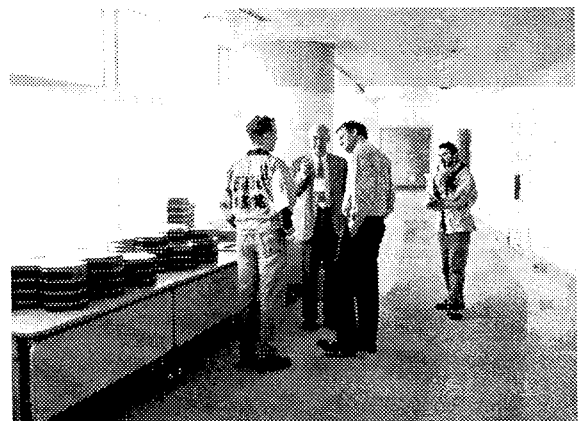
同じ会場内で ISMR-2001 と MiRai-01 (MR プロジェクト研究成果発表会) が開催され、マスコミの注目度もアップした。海外からの IEEE-VR 参加者が ISMR/MiRai-01 のデモ予約コーナーに列をなし、両国際会議をクロスした当日参加登録者が予想以上であったことから、イベントコンプレックスの相乗効果があったと考えられる。

◆ 学生ボランティア担当

横小路泰義

京都大学

IEEE-VR ではこれまでも学生ボランティアを募集し、レジストレーションデスクでの受付業務補助、会場入り口でのバッジチェック、会場内での AV 機器操作、クローカ業務等々多岐にわたる業務を彼らに任せてきた。ここ数年来は、会議開催地の地元学生には10時間以上の業務を条件に会議参加費等が免除となる特典を与え、地元以外の者には20時間以上の業務を条件に旅費・滞在費の補助として400米ドルを支給していた。今回は初めてのアメリカ国外での開催ということで、これまで大半を占めていたアメリカ国内学生の応募がかなり減るであろうとの予想から、支給金額を倍の9万円に引き上げた。最終的には海外からの20時間枠の学生7名(アメリカ、カナダ、ノルウェー、ブラジル)、10時間枠の学生28名(日本人学生および日本在住の外国人留学生)、合計35名がボランティアとして参加してくれた。ワークショップやチュートリアルも含めて5日間の会議期間であったが、仕事をしていくうちに徐々にお互い打ち解け、ボランティア学生は参加したことに皆満足してくれたようであった。会議に参加された方々も緑の法被を来た彼らの各所での働きぶりを覚えていただいていることと思う。最後は、会議終了後の横浜中華街で学生ボランティアだけのパーティー(飲茶食べ放題!)で締めくくった。



はっぴ姿の Student Volunteer